



会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所
一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
発行責任者 宮島喜文
編集責任者 深澤恵治
〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
ホームページ <https://www.jamt.or.jp>

P1～P3 全国「検査と健康展」2022 各地からの報告 第5回

P4 都道府県技師会 各地での取り組み (鹿児島県編)

全国「検査と健康展」2022 各地からの報告 第5回

福岡県

令和4年度 全国「検査と健康展」in 福岡を令和4年11月6日(日)に、福岡県北九州市八幡東区のレインボーブラザ7Fにおいて開催しました。この地域では11月5～6



日に「まつり起業祭八幡2022」が3年ぶりに開催され、周囲は歩行者天国となっており大勢の人出で賑わっていました。実施内容としては、体験ブース(血管年齢、ヘモグロビン濃度測定、パルスオキシメーター装着、手洗いチェッカー・血圧測定)、展示ブース(顕微鏡の世界、PCR検査について、便潜血検査のすすめ検査技師おしごと紹介、キッズコーナー)の9ブースを設置しました。3年ぶりの開催で、楽しみにしていたというお声をいくつもいただきました。9時開始でしたが、開始前から並んで待っている方もいらっしゃり、来場者数は182名(血管年齢85名、経皮的ヘモグロビン濃度約80名、SP02測定103名、北九州市血圧測定55名)でした。各ブースでは例年よりも来場者の滞在時間が長く、検査についての啓発が十分にできた印象です。コロナ禍を鑑みで市報など広報を控えたにも関わらず、例年に近い来場者に参加をいただくことができました。

(福岡県臨床衛生検査技師会 加藤 康男)

鳥取県

今年度は3年ぶりに現地開催を実現することができ、withコロナ時代での技師会活動の新たな一歩となったと思います。また、昨年度に引き続きホームページでのWeb開催も行い、多岐に



わたる活動を行うことができました。現地開催の規模は従来より縮小しての開催でしたが、50人弱の地域住民の方々にご来場いただき、臨床検査技師を知ってもらうきっかけとすることができました。

次年度はまだどのような状況になるか不透明ですが、少しでも地域の皆様に貢献できる企画を考えていきたいと思っています。

(鳥取県臨床検査技師会 岩田 和宏)

東京都

2022年11月19日(土) 2019年度以降、世界的な新型コロナウイルス感染流行により「検査と健康展」も3年ぶりに、前回と同様の東京スカイツリータウン地下3階のイベントスペースにて開催となりました。新型コロナ流行も第8波に入ったといわれる時期に開催となりましたが、パンフレットも手配り禁止となったため置きながらの配布や、ソーシャルディスタンスの確保、こまめな手指消毒・機器の消毒など、感染対策を留意しながら行いました。



血管年齢測定(実施人数:204名)では10代の若い人から高齢の方まで幅広く体験していただきました。測定結果に驚いたり、喜んだり、落胆したりと様々な反応で測定していた私達も楽しく測定できました。外国の方も体験され、通訳アプリを使用しながら対応する場面もありました。乳がん触診体験(実施人数:154名)女性だけでなく男性も多く体験していただきました。女性では表面を触るだけでなく奥の方まで探さないとダメなのねといった感想やしこりは思ったよりも硬くてびっくりしたといった感想が聞かれました。男性も自分には関係ないよと言いながらも、男性でも発症することを聞いて体験してみようという姿が多かったです。なかなかしこりが見つからず、悪戦苦闘しながらも見つけた時の驚きや真剣に話を聞いていただける反応はとてもやりがいを感じました。

(東京都臨床検査技師会 飛知和 澄子)

岡山県

岡山県臨床検査技師会では、令和4年11月19日（土）岡山コンベンションセンターレセプションホールにて「検査と健康展」を開催しました。新型コロナ第8波の入口で、例年より少なめの133名の参加でしたが、夫婦揃った高齢の方々や家族での参加もあり、子供から大人まで「血管年齢、骨密度、体脂肪率、頸動脈超音波、血圧測定などの無料検査や検査説明を実施し、医師を含めた47名のスタッフの丁寧な対応に大変喜んでいただきました。また、今年度は学習塾へのチラシ配付したことから、高校生の参加割合が多く、臨床検査体験、大学説明コーナーも盛況で、次世代に繋がる開催になったと思います。

（岡山県臨床検査技師会 中川 尚久）



新潟県

令和4年11月20日（日）新潟市のイオンモール新潟南にて全国「検査と健康展」2022 in Niigataを開催しました。新潟県も新型コロナウイルスの感染者が増加傾向の時期ではありましたが、イベントを行った商業施設はコロナ以前の賑わいを見せ始めておりました。残念ながら昨年に引き続き、体験型のイベントは行わずに、十分な感染対策を行いながら、臨床検査技師の仕事内容についてパネル展を開催しました。パネルには新型コロナウイルスの検査についても描かれ、来場者は興味深くスタッフの説明に耳を傾けていました。また、新型コロナウイルスの影響もあり、臨床検査技師が新型コロナPCR検査や検体採取を行っているなど、臨床検査技師という職業を知っている来場者が多く驚きました。学校紹介コーナーでは新潟県内に4校も学校があることに驚き、学校案内を手にしながらか説明を熱心に聞いてくださいました。



来年度こそは新型コロナウイルスが終息し、体験イベントを開催し、来場者が楽しめるようなイベントにすることで、臨床検査技師の認知度をさらに高めていきたいと思っています。

（新潟県臨床検査技師会 田端 篤）

富山県

令和4年11月20日（日）富山駅南北自由通路で「検査と健康展」 in TOYAMAを3年ぶりに開催しました。前回までは高岡市内でしたが、コロナ禍のため換気状態を考慮して初めて富山駅南北自由通路での開催となりました。以前までは、健康チェックとして肺年齢測

定、骨密度測定等、参加された方々と接触し検査を行っていました。今回は接触を最小限に控えた体験コーナー血液型検査・サーモグラフィー・認知症検査・人体モデルでの採血・個人防護具着用の5部門設置し、PCR機器も展示しました。臨床検査技師の仕事内容をパネルと映像で説明し、臨床検査技師学校2校を紹介しました。

初参加のスタッフがほとんどでの企画でしたので、多くの方が興味を持ち、参加されるか心配しました。体験コーナーに参加された方々は方が楽しかったという意見が多く、企画者の一員としてホッとしました。進路を決めていた高校生にも臨床検査技師の職業に興味を持ってもらえたことが嬉しかったです。

今後も「検査と健康展」を通して、臨床検査の正しい知識とその普及・啓発を行い、国民の健康づくりの意識の高揚を図りたいと考え活動していきたいです。

（富山県臨床検査技師会 辻田 由加利）

佐賀県

佐賀県臨床検査技師会は、2022年度全国「検査と健康展」を佐賀市の大型商業施設「ゆめタウン佐賀」にて開催いたしました。無料体験（乳がんセルフチェック体験、物忘れ検査、顕微鏡での観察、エコーにて観察）、展示（PCR検査装置、臨床検査技師の紹介等）を行い、一般の方へ臨床検査や臨床検査技師を広める活動ができました。3年ぶりの現地開催は、一般の方から直接声を聞けるため日常検査の励みになるとともに、会員同士の交流もでき大変有意義な事業となりました。



（佐賀県臨床検査技師会 渡辺 壱美）

鹿児島県

鹿児島県臨床検査技師会では、前回開催の2019年以降コロナ禍で開催中止を余儀なくされていましたが、今年度は感染対策を取りながら令和4年11月20日（日）鹿児島市街地に



今年4月開業されたセンテラス天文館6階ホールで開催しました。今回は検査体験にコロナ禍で一般の方にも身近になった「PCR検査」の体験会を設け、ピペッティング操作の体験説明も行ったことで来場者にPCR検査の細かい操作手技が周知できたと思います。またコロナ禍で健診やがん検診の受診率低下を踏まえて、

がん検診の重要性を訴える講演会や大腸がんや乳がんの検診啓発の体験会を設けたことで、がん検診の重要性を再度確認していただきました。

今回コロナ禍での開催でしたが来場者217名と多くの方に来場していただきました。また来場されたお客様の中には開店1時間前から足を運んで下さる方や、「このイベントの開催を心待ちにしていたのよ」と嬉しい声を掛けてくださるお客様もいました。「検査と健康展」開催は国民の健康保持や増進に寄与するとともに、臨床検査の理解を深めてもらえる良い機会になり、コロナ禍でさらに身近な存在になった「臨床検査技師」を認知してもらえる場になったと実感しました。

(鹿児島県臨床検査技師会 四元 由香里)

沖縄県

去る令和4年11月20日(日)に、イオン南風原ショッピングセンターにて「検査と健康展」を昨年に続き開催することができました。当初、新型コロナウイルス感染症がまだ完全に収束している状況でなく、昨年と同様に資料配付とパネル展を中心に考えていましたが、イオン南風原さまの方からメインの会場を提供するので、顕微鏡や機器などを導入して、是非大きくPRしていただきたいとの要望があり、当会としては願ったりの状況で、実務委員49名の人員で満を持して挑みました。まず、可能な限り密にならないように万全な感染対策を立てて行い、今回は「“臨床検査”って面白い！検査とカラダの不思議を体験しよう！」というテーマで、コロナ禍以前と同じ体制で、顕微鏡や医療機器を使用して、血液の中、がん細胞、細菌、エコーなどの検査を実施、それに加えて骨密度測定や新型コロナウイルス感染症関連展示の新設ブースも設けました。今回の目玉は、コロナ禍もあり、微生物検査の分野が実施した手洗いチェッカーを使用した消毒前と消毒後の手に残る細菌の比較でした。来場者にはかなり印象的だったと思います。開催日は、ブラックフライデーの期間とかぶっており、バルーンアートで会場入り口を抑え、ブースの中に誘導していく戦略が功を奏し、それに加えて2社(沖縄タイムス、琉球新報)の新聞広告を行っており、約500名の方に来場いただきました。顕微鏡やパネルを見ながら熱心に質問する子供や保護者も見受けられ、今回はかなりの効果が得られたと考えます。沖縄県臨床検査技師会は、今後もこのような企画を介して、臨床検査技師の認知度向上及び人材発掘に寄与していきたいと思ひます。

(沖縄県臨床検査技師会 山城 篤)

長野県

令和4年度「検査と健康展」を11月23日に佐久市イオンモール佐久平1Fのセントラルコートで開催しました。検査疑似体験ブースでは顕微鏡を使った「ミクロの世界を体験しよう」、超音波検査装置を使った「超音波の世界を体験しよう」ということで来場者の方に実際の検査機器に触れてもらえる場を作りました。普段触れることのない顕微鏡や超音波検査装置に小学生から大人まで多岐にわたる年代の方に触れていただくことができました。また、親子で参加していただいた方の何組かの親御さんがお子さんに「将来、検査技師になるのも良いんじゃない」といった声をかけている姿が見受けられ、「臨床検査技師」の認知度の向上にもつながりました。

健康チェックブースでは物忘れプログラムを使った「認知症テスト」と長野県診療放射線技師会の協力による「骨密度測定」を実施しました。認知症テストでは高齢層の方に多く参加していただきました。骨密度測定に協力していただいた診療放射線技師会の方々も新型コロナの影響でここ数年イベントがなかったので久々にイベントに参加できてよかったと話されていました。

パネル展示を中心とした臨床検査技師の仕事紹介、いろいろな臨床検査紹介のブースも多くの方にパネルをご覧いただくことができました。

(長野県臨床検査技師会 中澤 裕司)

三重県

全国「検査と健康展」は、今年度も新型コロナウイルスの影響が続いており、開催が危ぶまれましたが、令和4年11月23日(水・祝)鈴鹿医療科学大学千代崎キャンパスで、3年ぶりに一般市民を対象として開催することができました。スタッフは、賛助会員1名を含む総勢36名で、鈴鹿医療科学大学の学生の方にも会場案内等のお手伝いをさせていただきました。検査内容は、骨密度測定、頸動脈エコー検査、血管硬さ測定、認知症プログラムを行い、希望者には医師による検査相談も行いました。また昼休みを利用し、臨床検査ミニ講演と題し、4名の臨床検査技師が臨床検査等の重要性について講演しました。骨密度測定：64名、血管の硬さ測定：98名、頸動脈エコー：60名、物忘れ検査80名、臨床検査技師ミニ講演10名(一般参加者)、医師相談8名で、延べ310名が参加されました。地上波テレビ局1社の取材もあり、広く一般の方々に臨床検査および臨床検査技師の重要性を知っていただくことができたと思ひます。

(三重県臨床検査技師会 中西 繁夫)



都道府県技師会 各地での取り組み(鹿児島県編)

全国47都道府県それぞれに臨床（衛生）検査技師会があります。各都道府県技師会では日臨技と連携した活動以外にも、地元の医療関連団体や自治体、時には企業とも協力して地域に根差した独自の活動を行っています。今回、鹿児島県技師会より離島に焦点を当てた第18回鹿児島県医学検査学会について、原稿をいただきましたので、紹介いたします。

第18回鹿児島県医学検査学会：

テーマ「結い」を開催して

鹿児島県臨床検査技師会 有村 義輝

鹿児島県医学検査学会が去る2月11、12日に奄美大島（奄美市）にて開催されましたので報告いたします。今回は離島での現地開催に加え、サテライト会場として鹿児島市内Web会場（2か所）にて百数人が参加しました。日臨技からも代表理事である宮島会長に駆けつけていただきました。



現地会場：県立大島病院



シンポジウムの様子

現地会場である県立大島病院に、本島外からも、喜界島、徳之島、沖永良部島の検査技師が空路にて参加し、特に、シンポジウム「ここが大変、離島の検査室」のテーマで自然災害時発生（天候不良等）についての輸血、コロナ、試薬、検査機器等について活発な意見交換がなされました。質疑応答が多岐にわたり、自然に宮島会長も私もその中に加わせていただきました。学会もですが、研修会等においても離島の苦労など色々と考えさせる大変有意義な内容でした。

まさしく学会テーマ「結い」の精神をつくづく実感し、チーム医療の原点である「他職種との業務補完」を考えさせられました。また、研修会等でのスキル

アップ「学術向上」も大切なことですが、私も鹿臨技の代表理事として、まずは敬天愛人の心にて技師会員みんなに接することが大事であることを痛感しました。

今回、奄美大島地区の会員の熱い想い、さらに会員みんなでの手作りの学会にて本学会を大盛況にて終了することができました。

改めて、ご参加いただきました臨床検査技師皆様にお礼申しあげます。ありがとうございました！



鹿児島県臨床検査学会が11の町、奄美市の奄美大島病院にて開催された。ここが大変、離島の検査室というテーマで、奄美大島、喜界島、徳之島の臨床検査技師たちが、悪天候による輸血の欠乏や人材不足などの課題を共有し、近況に就き、奄美大島内の連携の重要性を強調した。

離島の課題を共有

県医学検査学会開催

奄美市

地元紙

南海日日新聞

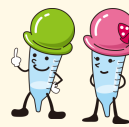
2023年2月14日付

『離島の課題を共有 県医学検査学会開催』

この記事は南海日日新聞社の許諾を得て転載しています。

鹿児島県臨床検査学会が11の町、奄美市の奄美大島病院にて開催された。ここが大変、離島の検査室というテーマで、奄美大島、喜界島、徳之島の臨床検査技師たちが、悪天候による輸血の欠乏や人材不足などの課題を共有し、近況に就き、奄美大島内の連携の重要性を強調した。

会報JAMTに掲載する都道府県技師会での取り組みや、検査技師の活動に関する原稿を募集いたします。ご投稿は当会事務局までメールでお寄せください。



（編集後記） 各地で梅の花が見頃との便りが届く季節となりました。春の訪れとともに新型コロナウイルス感染症が早く収束にむかってほしいと思います。

さて、今回も全国「検査と健康展」2022各地からの報告が掲載されています。本イベントで、他施設の仲間と久しぶりに会ったという方もいたのではないのでしょうか。このような活動を通じて、臨床検査技師同士の絆がいつそう深まることを心から願います。

（宮川）